

Safe Volu

(Former First Aid)

静岡県赤十字安全奉仕団機関紙 No.55 平成18年11月1日発行

10月1日には二つの活動が・・・共に大活躍！！

10月1日は、本団にとって二つの活動が重なりとても忙しい一日でした。

静岡市の支部庁舎では「第3回救急員フォローアップ講習」が開催され、団員13人の協力により参加した救急員の皆さんに有意義な一日をお過ごしいただきました。その結果、13人の入団者を迎え団員数は100人を越えて大きな組織に成長しました。また、伊東市役所において、「社会福祉を地域に定着させ、市民の参加と協力の下に地域ぐるみで助け合う、楽しく心豊かなふれあいの場」として開催された「伊東市ふれあい広場」へ、伊東市の団員の協力で62団体とともに活動が実現し、赤十字の紹介コーナーを設置することができました。心肺蘇生法の紹介を通して「赤十字」とのふれあいの場を提供できたと思います。二つの活動については、支部ホームページの「県内ニュース」で画像を交えて紹介していますので、是非ご覧ください。(赤十字事業部会)

「大道芸ワールドカップ in 静岡2006」間近！

～今年も、ステキな出会いの中でステキな時間をステキな仲間と共に過ごしてきます～

本団が救護を担当して5年目を迎える「大道芸ワールドカップ」が、今年は11月2～5日まで静岡市内を中心に繰り広げられます。本団イベント救護部会と大道芸実行委員会の綿密な調整の結果、赤十字看護奉仕団との協力体制も整い、2日からの本番を待つのみとなりました。「期間中の安全確保と傷病者救護については、赤十字なくしては考えられない」と大道芸実行委員会から毎年のように高い評価をいただいています。今年は延べ45人の協力で4日間を過ごします、多くの皆さんの激励をお待ちいたします。(イベント救護部会)

「新入団員13人」を迎え、多彩な資格や特技を生かして・・・

支部事業として、本団の発案で開催されることになった「救急員フォローアップ講習」を終えて、今年も13人の新入団員が委員会に入団届けを提出し、13人全員が団員名簿に登録されたことにより、団員数は103人に達しました。今回の新入団員の中には、多彩な資格や趣味をお持ちの方が多数いらっしゃいますので、ここで、個人情報を超えない範囲で紹介いたします。

精神保健福祉士や認定心理士、交流分析士の資格を持っている方、語学が堪能でポルトガル語、英語、スペイン語の通訳ができる方、中には税理士の方もいらっしゃいます。また、高齢者や障害者介助を希望されている方、子供に対する「読み聞かせ」を希望されている方もいらっしゃいます。本団の前身の救急奉仕団は「救急法指導員のみ」の構成だったために活動の制約がありましたが、団員資格を拡大したことにより団員構成の裾が広がり、当時と比べると活動に幅と深みが増していることは間違いなく、平時も災害時にも多方面からのニーズに対応できる特殊奉仕団に成長しつつあります。

今後も本団の特色を生かしつつ「社会安全に奉仕」していきます！！

(事務局)

今月の眼(見た)・耳(聴いた)！「ボランティアのお作法？」

今回から何回かは、「ボランティアの規範」と題して、活動の心構えを紹介していきます。

- ① 復旧や復興の主役は「被災者」です。ボランティアはそれをサポートする存在であるという原則を忘れないように心がけましょう。また、被災地や被災者、地元行政、ボランティアセンターなどに対しては、あなたの善意を活かす場を作ってくれたことに感謝しましょう。
- ② 防災ボランティアは、水・食料・常備薬・適切な服装・保険等、必要な備えをして自己完結を原則として被災地に入りましょう。被災者・被災地や現地ボランティアセンターに負担をかけないようにしましょう

(事務局)